

ライティングは大事か？

自分の価値を示すには、

1. プレゼンなどのトークによって示す。
2. レポートなどの書いたもので示す。
3. プログラムなどの直接的な成果物で示す。

事になる。これらはいずれも大事。

良い文章が書けることは、良い人格の証でもある。

ライティングは難しいか？

数学ほど難しくもないが、簡単に身につくわけでもない。

- 何を書いても良いのであれば、難しくくない。例えば、日記や感想文は誰でも書ける（羞恥心を捨てれば）。
- わかりやすい文章、無駄のない文章、他人にも価値のある文章、を書くことは、それほど容易ではない。ある程度の才能とトレーニングは必要。

レポート作成の 3原則

レポートの3原則

1. 見た目が大事
2. 正しい日本語で書くことが大事
3. その上で内容が充実していること

1. 見た目のダメな例

レポートのフォーマットやフォント・行揃え、
図表の体裁がいい加減なレポートはダメ。

1. 図番号、表番号、説明（キャプション）を書く。
2. 図に画面キャプチャ（スマホ撮影）を多用しないこと。スマホによる撮影はあなたのメモ。
3. プログラムを貼り付ける場合は、画像ではなく、等幅フォントで行間を狭く、文字も小さくしたテキストを貼り付け、全体を枠線で囲む。
4. 表に数値を記入する場合は、小数点を揃え、小数点以下の桁数を無意味に長くしない。
などに注意すること。

2. 正しい日本語で書く

会話と違って、レポートのような文書の場合、日本語がおかしいと内容と人格まで疑われる。

1. 主語と述語を正しく対応させること。
2. 「だ・である調」で書く。
3. 段落の区切りがわかるように書く。
4. **一語・一意**：レポートにふさわしい単語を使うこと。喋り言葉や曖昧な単語はふさわしくない。
5. **一文・一論理**：文は、できるだけ、単文にすること。長い文は好ましくない。
6. **一段落・一命題**：一つの段落を一つの意味のまとまりにすること。

3. レポートの内容に関して

1. 「要約／概要」は記述量に制限があるので、その範囲内で全体を要約すること。イントロ的なことをたくさん記述する学生が多いが、それは短くして、実験の内容と結果に関することを多く書くべきである。
2. 「実験の目的」として実験内容をそのまま書く学生が多い。間違いとまでは言えないが、その実験を行う意義を書く方が良い。
 1. 「大学で学ぶ目的」は「単位を取るためである」は間違いではないが、その程度の目的では有意義な学生生活にならない。
3. 「～と考察した。」「～と考えた。」と書く場合にはその根拠を示すこと。根拠がなければ、単なる感想である。実験レポートに感想は不要。